

# 『シルクロードと楼蘭探検』

講師 就美女子大学教授 長澤 和俊 先生

## 講演要旨

十一年前初めて楼蘭に行ったときは、写真も駄目だといふおかしな調査だった。今回再度楼蘭へ行くことになったが、今回は写真を沢山撮れたので、今日はできるだけ多く皆さんに見ていただきたい。

楼蘭の特色は、一つは隊商都市であること、もう一つは玉の中継交易場だったらしいことが、殷の王妃の墓から出た玉の分析によって分かってきた。



講演する長澤教授

は遊牧民が度々襲い、また中国も西域に勢力を伸ばすにはまず楼蘭のような要衝を確保することになり、結局楼蘭は周辺の民族に滅ぼされてしまったことになる。

楼蘭という名が初めて文献に出るのは史記の匈奴伝で、BC一七六年に冒頓単于が漢の孝文帝に送った書簡に「...西方を征服して楼蘭、烏孫、呼提を定める」とある。

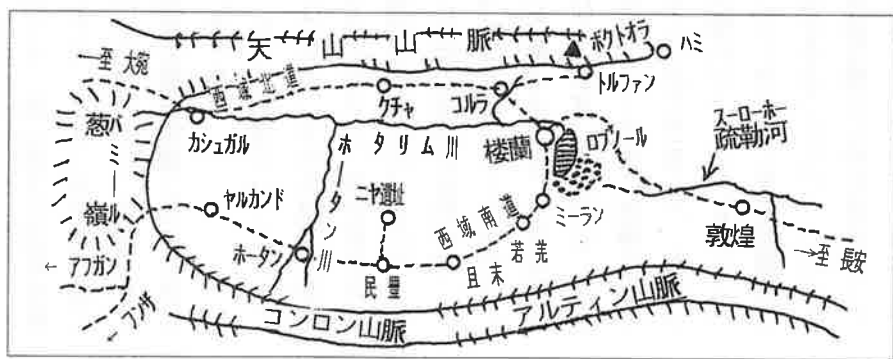
以後、漢と匈奴は楼蘭を支配下に置こうとしばしば争うが、BC七十七年、漢は親匈奴派の楼蘭王を暗殺し、漢に人質に取られていた尉屠耆という青年に、漢の鄯善王という

印璽を与え、漢の宮女を妃にして帰らせた。このときから楼蘭は鄯善と名を変え、完全に中国の傀儡王国になる。その後何回も匈奴や周辺の部族との攻防を経て、五世紀のころに北魏の貴族が国王に送

り込まれてから、人々は次第にここを離れて行き、五世紀の終わりにはこの地に人は全くなくなってしまう。玄奘三蔵が七世紀にここを通ったときは、「人煙断絶」と表現している。

楼蘭はよく流砂に埋もれた都などと形容されるが、実際は砂漠はほとんどなく、昔のロプ湖が干上がったって、ヤルダンと呼ばれる固いごつごつした粘土の層となっている。そこに様々な文物が散乱しているが、千五百年を経て遺物も遺跡もかなり崩壊している。で、早急な保護、保全の必要を感じている。

十一年前は車も通れないので荷物を背負って二十数キロ歩いて入った。その後、このさまよえる湖といわれる鹹湖底に石油探査の手が伸びて、大量の砂漠車、石油探査車のごつごつした湖底をならして縦横に道が出来たので、今回は楼蘭故城のすぐそばまで車で行くことができ、調査も手広く行うことができた。お陰で今回は新しい寺院跡を発見



することができた。さまよえる湖の実態を解明しようという夢は消えたが、今後もロプ湖周辺の調査探検を続け、新しい発見をするよう努めたいと思っている。(この後、数十枚のスライドにより、楼蘭の遺跡、調査の様子などを詳しく視聴させていただきました。)(須賀)

## 編集後記

福武教育振興財団の平成十二年度助成募集要項を掲載しました。図書助成は一件二十万円に増額、研究大会等助成も総額三百万円に増額いたしました。中でも新規事業として募集する「英語教員研修助成」は総額一千万円という思い切った助成事業で、この事業の成り行きが注目されます。これらの事業を含めて、教育・文化ともに平成十二年度の事業計画を載せましたので御参考にしていただければ幸いです。

一月の長澤和俊先生の講演会はこれまでで最多の三百人に近い参加者を得ました。紙面ではほんの一部しか報告できないのが残念です。録音テープがありますので、御希望の方は百五十分テープと百六十円切手をお寄せくださればダビングしてお届けします。素人ばかりがやっているのではなかなかうまくいきませんがどうか御指導のほどよろしくお願いたします。(須賀)

# 不易

## 教育関係助成募集始まる!

### ◎教育研究助成

助成を受けられ、日々研究を重ねていらつしやる先生方。毎年素晴らしい成果を上げ、県下の教育の向上に大いに貢献しておられます。

#### 1 助成の目的

教育の内容、及び教育の方法等に関する実践的研究を助成し、学校教育の発展に資することを目的としています。昨年度に引き続き、今年度も課題研究を重視します。

#### 2 研究種別

- (1) 課題研究
- ① 郷土理解
- ② 環境教育
- ③ 個性を生かす教育
- ④ 地域及び家庭の教育力
- ⑤ いきいきとした読書活動
- ⑥ 授業に生かす学校図書館情報活用能力をつける

### 学校図書館

⑧ 「生きる力を育む教育」への取り組み

⑨ どの子にも居場所のある学級・授業づくり

#### (2) 自由研究 (右記以外)

#### 3 応募資格

岡山県下の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校、専門学校の教職員及び教育委員会所轄の教育研究機関の職員、及びこれに準ずるもので、個人又はグループ。

#### 4 助成件数・助成額

四十件程度とし、一件につき上限は二十万円。総額八百万円。

### ◎図書助成

「活字ばなれ」が深刻に進む中、何度も足を運びたくなくなる。そんな魅力的な図書館づくりを目指しませんか?

第6号  
平成12年4月1日  
.....  
(財)福武教育振興財団  
(財)福武文化振興財団  
〒700-0807  
岡山市南方3-7-17  
TEL.086-221-5254  
FAX.086-232-3190  
http://www.fukutake.or.jp/  
印刷(株)シンプレス

#### 1 助成の目的

図書館の図書等の充実による図書館利用の進展と読書活動の振興に資することを目的としています。

#### 2 応募資格

岡山県下の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校及び専門学校。原則として、次の各項目の一つ以上に該当する学校園を優先します。

#### 3 助成件数・助成額

二十五件程度とし、一件につき上限は二十万円(昨年度より十万円増額)。総額五百万円。

### ◎教育研究大会等助成

昨年度も多くの研究大会が開かれました。教育活動の活性化、更なる質の向上。熱い

意見が交わされる大会を支援します。

#### 1 助成の目的

教育内容及び教育方法などの研究発表の場である教育研究大会等の開催を支援することにより、学校教育の発展に資することを目的とします。

#### 2 対象

保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校、専門学校等の教育内容、教育方法などに関して教育研究団体が主催する研究大会等の開催に際し、その教育研究団体に対して助成します。

#### 3 助成金額

一件当たりの助成限度額は原則として県大会十万円、中国四国大会十五〜二十万円、全国大会二十〜三十万円。昨年度に比べて金額の幅が広がりました。総額三百万円。

### ◎英語教員研修助成

国際化時代の今、英語は世界の共通語とまで言われ、同時に英語教員に大きな期待がかかっています。今年度より三年間限定での新規事業で

す。やる気のある先生方、ぜひ御応募ください!

#### 1 助成の目的

英語教員のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とします。

#### 2 対象及び人員

中学校、高等学校の英語教員から各八名、及び小学校で英語指導を担当する教員四名の計二十名。

#### 3 実施時期

七月二十九日(土)〜八月十一日(金)の日曜日を除く十二日間。

#### 4 助成額

レッスン料及び教材費一人約五十万円。総額一千万円。ただし旅費、昼食費は自己負担となります。

★応募方法:財団所定の申請書により応募してください。

★締め切り:平成十二年四月三十日(当日消印有効)ただし教育研究大会等助成は予算範囲内で随時受け付けます。

★審査委員会等で厳正に審査し、理事会で決定。六月下旬に通知します。

御応募、お待ちしております!

(樽井)

平成十二年度

福武教育振興財団事業計画

福武教育振興財団は、平成十二年三月十六日の理事会で平成十二年度の事業計画を決めた。

【基本方針】

平成十二年度は従来実施している助成関係事業を基盤に新しい事業を推進し、更に岡山県の教育振興に努める。また基本的な規程類の作成など、財団内部の組織体制の整備を引き続き行う。

【主な事業内容と計画】

- 1 表彰関係事業
福武哲彦教育賞
教育の研究と、その実践に著大な業績をあげている個人又は団体を三件表彰する。副賞総額百八十万円。
2 助成関係事業
(1) 教育研究助成
教育の内容及び方法等に関する実践的研究を行っている県下の学校園の個人、グループ又は団体を助成する。一件の上限は二十万円で、総額八百

- 万円。
(2) 図書助成
図書館利用の活性化及び読書活動の振興を目的に、県下の学校園に助成する。一件の上限は二十万円で、総額五百万円。
(3) 教育研究大会等助成
教育研究の発表の場である大会等の開催を支援する。
県大会は十万円、中四国大会は十五〜二十万円、全国大会は二十〜三十万円とする。
(4) 指定研究助成↓新規
助成額は三百万円。
(5) 英語教員研修助成↓新規
英語教員のコミュニケーション能力を向上させるために、集中的な特別研修を行う。レッスン料及び教材費一人五十万円、総額一千万円。
(6) 特定教育助成↓新規
①吉備高原希望中学校の運営支援
助成額は三百万円。
②私学振興資金の助成

助成額は三百万円。

- 3 調査研究事業
(1) 海外教育事情調査
海外の教育事情を調査研究し、国際理解を深める。調査先はタイ・マレーシア。調査期間は十一月八日(水)〜十五日(水)。予算は五百万円。参加者は十四名。調査終了後、報告書を作成し刊行する。
(2) 県内教育事情調査
県内の教育事情を調査する。調査結果は機関誌に掲載する。
4 広報・啓発事業
(1) 教育・文化講演会
文化振興財団と共催で年二回開催する。
(2) 研究会・シンポジウム等
(3) 教育研究助成成果報告会
助成成果の共有と情報交換の場として開催する。
(4) 海外教育事情調査報告会
(5) ホームページ
昨年七月に開設。順次更新をしている。
7 財団の活動状況等の発刊
年報・表彰助成の記録・要覧・教育研究助成成果報告書・財団機関誌「不易」の発刊を通じて活動を報告する。(岡田)

がんばってます

倉敷市立福田中学校
教諭 山本 達己先生

二月二十九日、平成十一年度と二年連続で教育研究助成を受けている福田中学校の山本先生を訪ねました。二年間を通して取り組まれた先生の研究テーマは、「個性を生かし、豊かな心を育む授業の研究」です。その成果の一端をご紹介します。

生徒からのアンケート結果により、技術・家庭科の授業で希望の多かった「栽培」をすることになり、平成十年度は、初めて学級園づくりを行いました。

福田中学校は田んぼが広がる環境で、自宅が農家の生徒も多いそうです。しかし、自分の家でトマトを栽培している、とれぐらいで赤い実を付けるのには知りませんでした。だからこそ、栽培を通して生徒が発見することは多く、毎日興味をもって植物の成長を見守りました。



鉢と一緒に記念撮影

実際に栽培しているのは三年生で、現在楽しみにしていることがあります。今まで丹精込めて育てたパンジーの花を自分たちの卒業式の時に花道として使用し、最後は一鉢ずつ持って帰るのです。山本先生がこの取り組みを実施してみて良かった点は、栽培を経験していない生徒は花を踏むことを気にしないのに対し、経験した生徒は花を踏んだりしないということに気づいたことだと断言してくださいました。生き物に触れた生徒の心には思いやりの気持ちが芽生えた結果だと思えます。

山本先生の研究テーマの副題は「学級園の栽培を通じて自分を見つめる再発見」です。今まさに花開いている気がします。(岡田)

平成十二年度

福武文化振興財団事業計画

福武文化振興財団は、平成十二年三月十六日の理事会で平成十二年度の事業計画を決めた。

【基本方針】

平成十二年度は定着してきた文化関係助成事業を基盤に新しい事業を推進し、更に岡山県の文化振興に努める。また基本的な規程類の作成など、財団内部の組織体制の整備を引き続き行う。

【主な事業内容と計画】

- 1 助成関係事業
(1) 文化関係助成
伝統文化及び現代文化の振興と地域の活性化に資することのできる団体や個人を助成する。一件の上限は伝統文化部門三十万円、現代文化部門二十万円で、総額千四百万円。
(2) 指定文化財の保全費用の助成↓新規。助成総額は、三百万円。
(3) 文化発表会助成↓新規。発表会開催費用の一部を助成

- する。助成総額二百万円。
(4) 特定文化事業助成↓新規
ア 岡山シンフォニーホール創設十周年記念事業。
イ 閑谷学校創学三三〇年記念事業。
助成総額四百万円。
2 表彰事業
(1) 福武文化賞↓新規
優れた文化的業績を上げた個人又は団体を二件表彰する。副賞総額百二十万円。
(2) 福武文化奨励賞↓新規
将来性のある、優れた文化的活動をしている個人又は団体を二件表彰する。副賞総額六十万円。
3 伝統文化振興事業
岡山県の伝統文化振興のため、次の事業を助成する。
(1) 備前陶芸大学校構想の支援↓新規。助成額百万円。
(2) 吉備楽の復興、普及の支援↓新規。助成額百万円。
(3) 伝統工芸技術の保全・振興の支援↓新規。助成額百

- 万円。
4 美術館事業
国古康雄美術館の運営拡大を図る。年間支出額八百万円。
5 調査研究事業
(1) 助成事業による文化活動団体のリスト及び資料の収集。過去三年間の助成団体の活動状況を調査する。
(2) 被助成団体の活動実態調査。前年度助成した団体を訪問し、機関誌に掲載する。
6 広報・啓発事業
(1) 教育・文化講演会
教育振興財団と共催で年二回開催する。
(2) 文化関係助成成果報告会
活動成果の共有と情報交換の場として開催する。
(3) ホームページ
昨年七月に開設。順次更新をしている。
7 財団の活動状況等の発刊
年報・要覧・助成の記録・文化関係助成成果報告書・財団機関誌「不易」の発刊を通じて活動状況を報告することになっている。(佐々木)

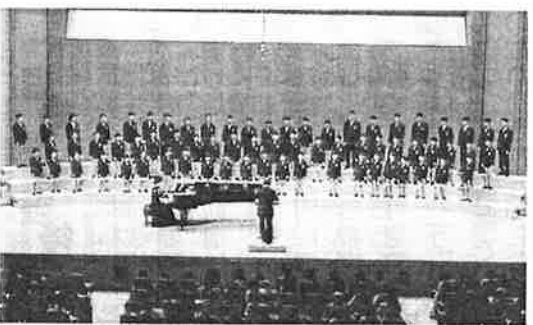
こんにちは

桃太郎少年合唱団
代表 金光 武義さん

桃太郎少年合唱団は、昭和二十七年に青少年の健全育成と地域音楽文化向上に役立てる目的で創設されました。現在の団員は七十一名、今年二月には、岡山県文化賞を受賞されています。今回は、設立以来指導にあたっておられる団長の棚田国雄さんをお訪ねしました。

少年合唱団というと、すぐにウィーン少年合唱団を連想するのですが、桃太郎少年合唱団は昨年八月、そのウィーン少年合唱団と合同合唱、ジョンントコンサートを行うという夢のようなことを実現されています。合唱では、有名なハッラー先生に指導を受けることができました。最初は消極的だった子どもたちが、フリータイムにまで猛練習を始めるようになり、ついには

楽譜を握りしめたまま眠ってしまうほど意欲的になったそうです。子どもたちの成長を目の当たりにされたときのお喜びの様子を想像して、私もうれしくなりました。あいに練習風景は見られなかったのですが、所狭しと並んだ合唱団のCDのうち一曲ほど聞かせていただいて、少年のやわらかな歌声を味わいました。「上手ですね。特別な才能が必要なのですか?」との問いに、棚田先生は「歌は、練習するほどに、絶対うまくなりますよ。」と答えてくださいました。小さな希望が芽生えました。これからも美しい歌声で、私たちを楽しませてください。(佐々木)



桃太郎少年合唱団